

受益者の皆さまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
さて「インベスコ プレミア・プラス・ファンド」は、
2016年5月20日に第3期の決算を行いました。ここに期中
中の運用状況をご報告申し上げます。
今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

*当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／資産複合	
信託期間	2024年11月20日まで	
運用方針	<ul style="list-style-type: none"> 投資信託証券への投資を通じて、日本を含む世界各国の債券、株式、資源資産（コモディティ）を実質的な投資対象とし、投資信託財産の成長を図ることを目標として運用を行います。 債券、株式、資源資産3資産のリスク寄与度を同程度に配分する戦略的配分を行った上で、期待リターンの上上を目的としてその配分を変更する戦略的配分を行います。 実質外貨建資産については、実質的に為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図ることを基本とします。 	
主要運用対象	インベスコ プレミア・ プラス・ファンド	「インベスコ バランス ト・リスク・アロケー ション マザーファン ド」および「インベスコ マネーブル・ファンド (適格機関投資家私募投 信)」を主要投資対象とし ます。
	インベスコ バランス・リスク・ アロケーション マザーファンド	別に定める投資信託証券※ への投資を通じて、日本 を含む世界各国の債券、 株式、コモディティに実 質的に投資します。 ※別に定める投資信託証券と は、ルクセンブルグ籍外国投 資法人インベスコ・バラン ス・リスク・アロケーショ ン・ファンド クラス0- Accumulation 投資信託証券 (円ヘッジ付)です。
	インベスコ マネーブル・ファンド (適格機関投資家私募投信)	主として、円貨建ての短 期公社債および短期金融 商品に投資します。
組入制限	<ul style="list-style-type: none"> 投資信託証券（マザーファンド受益証券を含みます。）への投資割合には、制限を設けません。 株式への直接投資は行いません。 外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。 デリバティブ取引の直接利用は行いません。 	
分配方針	原則として年2回の毎決算時（5・11月の各20日、該当日が休業日の場合は翌営業日）に委託会社が、基準価額水準、市況動向、残存信託期間等を勘案して分配を行います。ただし、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。	

<運用報告書に関するお問い合わせ先>

インベスコ・アセット・マネジメント株式会社
お問い合わせダイヤル

電話番号：(03) 6447-3100

受付時間：毎営業日の午前9時～午後5時



運用報告書（全体版）

第3期
(決算日 2016年5月20日)

インベスコ・アセット・マネジメント

東京都港区六本木六丁目10番1号六本木ヒルズ森タワー14階

<http://www.invesco.co.jp/>

○設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 額 (分配落)	価 額			投 資 信 託 組 入 比 率	純 資 産 額
		税 分 配 金	期 騰 落	中 率		
(設定日)	円	円		%	%	百万円
2014年11月28日	10,000	—	—	—	—	470
1期(2015年5月20日)	10,188	0	1.9	94.0		600
2期(2015年11月20日)	9,510	0	△6.7	99.3		491
3期(2016年5月20日)	9,740	0	2.4	98.3		373

(注) 基準価額は1万口当たりです。

(注) 当ファンドはマザーファンドを組み入れていますので、「投資信託証券組入比率」は実質比率を記載しています。

(注) 当ファンドは債券、株式、資源資産（コモディティ）を実質的な投資対象とし、それら3資産のリスク寄与度を同程度に配分する戦略的配分を行うため、適切なベンチマークまたは参考指数が存在しません。このためベンチマークまたは参考指数を掲載していません。以下同じです。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 額	価 額		投 資 信 託 組 入 比 率
		騰 落	率	
(期 首)	円		%	%
2015年11月20日	9,510	—	—	99.3
11月末	9,578	0.7	98.9	
12月末	9,439	△0.7	98.0	
2016年1月末	9,210	△3.2	99.5	
2月末	9,424	△0.9	98.7	
3月末	9,603	1.0	99.0	
4月末	9,817	3.2	99.1	
(期 末)				
2016年5月20日	9,740	2.4	98.3	

(注) 基準価額は1万口当たりです。

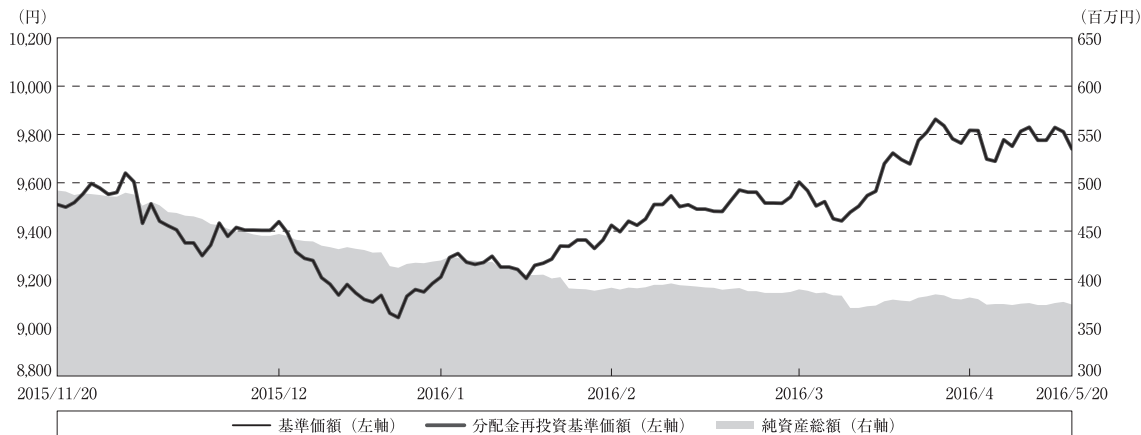
(注) 騰落率は期首比です。

(注) 当ファンドはマザーファンドを組み入れていますので、「投資信託証券組入比率」は実質比率を記載しています。

○運用経過

期中の基準価額等の推移

(2015年11月21日～2016年5月20日)



期首：9,510円

期末：9,740円 (既払分配金 (税込み)：0円)

騰落率：2.4% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金 (税込み) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 分配金再投資基準価額は、期首 (2015年11月20日) の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

○基準価額の主な変動要因

[上昇要因]

- 日本を含む世界各国の債券、株式、資源資産 (コモディティ) を実質的な投資対象としているため、①2016年1月～2月にかけて債券市場において利回りが低下 (債券価格が上昇) したこと、②3月～4月にかけて株式市場およびコモディティ価格が上昇に転じたことが基準価額の上昇要因となりました。
- 期待リターンの向上を目的としてその配分を変更する戦術的配分において、期の前半は、コモディティの戦術的資産配分を低め (アンダーウェイト) としたことが基準価額の上昇要因となりました。

[下落要因]

- 世界的な景気減速懸念から株式市場の変動率が高くなり、2016年2月など大きな下落局面があったことが、基準価額の下落要因となりました。また期の前半は、原油を中心にコモディティ市場全体が下落したことが、基準価額の下落要因となりました。

投資環境
《債券市場》

米国30年国債	2.535% (前期末 3.067%)	英国10年国債	1.713% (同 1.987%)
ドイツ10年国債	△0.264% (同 0.150%)	日本10年国債	0.539% (同 0.782%)

※上記は各国債先物の当期末の最終利回りです。

当期の世界の債券市場は、期初より2016年2月前半にかけて、世界的に国債利回りは低下（債券価格は上昇）しました。米国では、2015年12月の米連邦公開市場委員会（FOMC）において0.25%の利上げが実施されましたが、中国をはじめとした世界的な景気減速懸念や原油価格の下落などを背景にリスク回避的な動きが強まったことから、米国10年国債利回りは低下しました。欧州では、欧州中央銀行（ECB）による追加金融緩和期待などを背景に、国債利回りが低下基調となりました。その後は、期末にかけて国債利回りがおおむね横ばいの推移となりました。

《株式市場》

米国S&P500種指数先物	△1.9%	英国FTSE100種総合株価指数先物	△3.2%
欧州Euro Stoxx50指数先物	△15.1%	日本TOPIX先物	△16.2%

※騰落率は当期末時点（対前期末比）の数値です。

当期の世界の株式市場は、期初から2016年2月中旬にかけて大きく下落したものの、その後反発する展開となりました。世界経済の先行き不透明感や資源価格の急激な下落が、株価の下落要因となりました。一方で、①米国を中心にマクロ経済指標がおおむね堅調な内容となったこと、②ECBによる量的金融緩和策が投資家心理を支えたこと、③2016年2月中旬に原油価格（WTI先物）が1バレル＝26米ドル台まで下落した後は戻り基調となったこと一などを背景に、株価は上昇に転じました。

《コモディティ市場》

エネルギー（WTI原油）	△0.7%	工業金属（銅）	△0.6%
貴金属（金）	+15.9%	農産物（RICI）	+4.0%

※騰落率は当期末時点（対前期末比）の数値です。代表的なETCの価格を用いて計算しています。

当期のコモディティ市場は、中国景気の減速を背景とした需要減少懸念などを背景に、原油価格を中心に2016年2月まで大幅に下落しました。その後は産出量削減に向けての協調期待や米国の利上げペースが緩やかなものになるとの見通しから、原油市況や金価格などが上昇しました。

当期の原油価格は①中国の景気失速を背景とした需要減少懸念、②石油輸出国機構（OPEC）での減産合意が見送られたこと一などを背景に、期初より2016年2月中旬にかけて大幅に下落しました。その後は主要産油国による産出量削減に向けての協調への期待感などを背景に、原油価格は大幅に反発しました。

2016年1月には、中東情勢緊迫化などの地政学リスクの高まりから安全資産とされる金を買われました。その後も、米国の利上げペースが緩やかなものになるとの期待感が金価格の上昇を支えました。

当ファンドのポートフォリオ

インベスコ バランス・リスク・アロケーション マザーファンド（以下、マザーファンドといいます。）を高位に組み入れ、日本を含む世界各国の債券、株式、コモディティに実質的に投資し、様々な経済局面において安定した投資成果を目指しました。残余部分はインベスコ マネープール・ファンド（適格機関投資家私募投信）（以下、マネープール・ファンドといいます。）を組み入れ、安定した収益の確保を図りました。

マザーファンドでは、主としてルクセンブルグ籍外国投資法人インベスコ・バランス・リスク・アロケーション・ファンド クラスC-Accumulation投資信託証券（円ヘッジ付）に投資を行いました。同外国投資法人では、債券、株式、コモディティ資産に対しては、リスクの低い資産を多く、リスクの高い資産を少なく保有するリスク・パリティを基本とする戦略的資産配分とし、インベスコ独自のモデルを用いて、定量的に経済環境を分析、判断し、ポジションを調整することで、戦術的資産配分を決定しました。なお、効率的な運用を行うため、債券先物、株価指数先物、コモディティ上場投資証券およびコモディティ指数連動債などを用いました。

具体的には、まずリスク・パリティを基本として各資産クラスにてロング・ポジションを形成し、独自のモデルによって、以下のような戦術的資産配分を行いました。

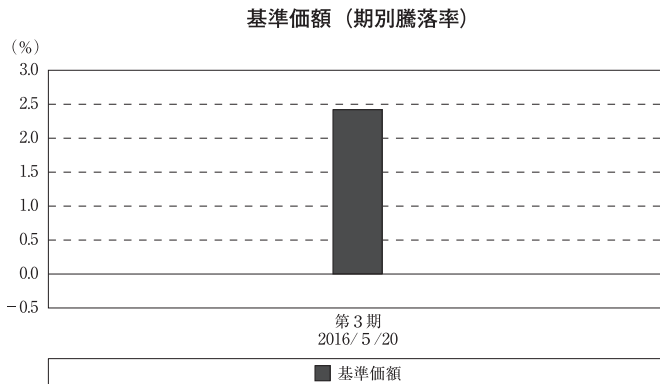
- ・債券は、ほぼ期を通じてオーバーウェイトとしました。2016年4月にはニュートラルに近づけ、期末にかけてアンダーウェイトとしました。
- ・株式は、2016年1月～2月を除いてオーバーウェイトとしました。2016年1月～2月にかけてアンダーウェイトとした背景は、世界的な景気後退懸念の台頭により、市場のリスク回避姿勢が強まったことを反映したものでした。
- ・コモディティは、2016年4月以降、アンダーウェイトからオーバーウェイトに移行しました。

マネープール・ファンドでは、資産規模などを勘案し、短期金融商品による運用を行いました。

当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドは、運用の目標となるベンチマークや参考指数を設けておりません。

右記のグラフは、期中の当ファンドの期別基準価額騰落率です。



(注) 基準価額の騰落率は分配金（税込み）込みです。

分配金

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向および残存信託期間などを勘案し、当期は見送りとさせて頂きました。収益分配金に充てなかった収益につきましては、信託財産に留保して元本部分と同一の運用を行います。

○分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第3期
	2015年11月21日～ 2016年5月20日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	164

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

○今後の運用方針

マザーファンドを高位に組み入れ、日本を含む世界各国の債券、株式、コモディティに実質的に投資し、様々な経済局面において安定した投資成果を目指します。残余部分はマネープール・ファンドを組み入れ、安定した収益の確保を図ります。

マザーファンドでは、主としてルクセンブルグ籍外国投資法人インベスコ・バランスト・リスク・アロケーション・ファンド クラスC-Accumulation投資信託証券(円ヘッジ付)に投資を行います。同外国投資法人では、債券、株式、コモディティに対しては、リスクの低い資産を多く、リスクの高い資産を少なく保有するリスク・パリティを基本とする戦略的資産配分とし、インベスコ独自のモデルを用いて、定量的に経済環境を分析、判断し、ポジションを調整することで、戦術的資産配分を決定します。前記の方針に基づき、毎月月初時点での投資判断をもとにリバランスを行いながら、今後も規律あるプロセスに従った運用を行ってまいります。なお、効率的な運用を行うため、債券先物、株価指数先物、コモディティ上場投資証券およびコモディティ指数連動債などを用います。

マネープール・ファンドでは、円貨建ての短期公社債および短期金融商品を中心に運用を行います。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2015年11月21日～2016年5月20日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	44	0.462	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	(4)	(0.043)	ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、法定書面等の作成、基準価額の算出等の対価
（ 販 売 会 社 ）	(38)	(0.403)	購入後の情報提供、運用報告書等各种資料の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価
（ 受 託 会 社 ）	(2)	(0.016)	ファンドの財産の保管・管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) そ の 他 費 用	5	0.053	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 監 査 費 用 ）	(1)	(0.014)	監査費用は、監査法人に支払うファンドの監査に係る費用
（ 印 刷 費 用 ）	(4)	(0.039)	印刷費用は、目論見書や運用報告書等の法定書類の作成・印刷に要する費用等
（ そ の 他 ）	(0)	(0.000)	その他は、外国有価証券に係る税金および信託事務の処理に要するその他の費用等
合 計	49	0.515	
期中の平均基準価額は、9,511円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券（親投資信託を除く）が支払った費用を含みません。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第4位を四捨五入してあります。

○ 売買及び取引の状況

(2015年11月21日～2016年5月20日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘 柄	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
インベスコ バランス・リスク・アロケーション マザーファンド	5,152	5,027	143,388	136,290

(注) 単位未満は切捨てています。

○利害関係人との取引状況等

(2015年11月21日～2016年5月20日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2016年5月20日現在)

ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

銘	柄	期首(前期末)	当 期 末		
		口 数	口 数	評 価 額	比 率
		千口	千口	千円	%
インベスコ マネーパール・ファンド (適格機関投資家私募投信)		5,000	5,000	4,999	1.3
合 計		5,000	5,000	4,999	1.3

(注) 比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 口数・評価額の単位未満は切捨てています。

親投資信託残高

銘	柄	期首(前期末)	当 期 末	
		口 数	口 数	評 価 額
		千口	千口	千円
インベスコ バランスト・リスク・アロケーション マザーファンド		513,227	374,991	371,129

(注) 口数・評価額の単位未満は切捨てています。

○投資信託財産の構成

(2016年5月20日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
投資信託受益証券	千円 4,999	% 1.3
インベスコ バランスト・リスク・アロケーション マザーファンド	371,129	98.7
コール・ローン等、その他	72	0.0
投資信託財産総額	376,200	100.0

(注) 金額の単位未満は切捨てています。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2016年5月20日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	376,200,687
投資信託受益証券(評価額)	4,999,000
インベスコ バランス・リスク・アロケーション マダーフアンド(評価額)	371,129,051
未収入金	72,636
(B) 負債	2,210,511
未払解約金	72,636
未払信託報酬	1,915,278
その他未払費用	222,597
(C) 純資産総額(A-B)	373,990,176
元本	383,963,224
次期繰越損益金	△ 9,973,048
(D) 受益権総口数	383,963,224口
1万口当たり基準価額(C/D)	9,740円

<注記事項> (当運用報告書作成時点では監査未了です。)

(貸借対照表関係)

1. 期首元本額	517,325,581円
期中追加設定元本額	5,225,511円
期中一部解約元本額	138,587,868円
2. 元本の欠損	
貸借対照表上の純資産総額が元本総額を下回っており、その差額は9,973,048円です。	

○損益の状況 (2015年11月21日～2016年5月20日)

項 目	当 期
	円
(A) 有価証券売買損益	10,916,122
売買益	13,274,462
売買損	△ 2,358,340
(B) 信託報酬等	△ 2,137,875
(C) 当期損益金(A+B)	8,778,247
(D) 前期繰越損益金	△18,951,773
(E) 追加信託差損益金	200,478
(配当等相当額)	(745,992)
(売買損益相当額)	(△ 545,514)
(F) 計(C+D+E)	△ 9,973,048
(G) 収益分配金	0
次期繰越損益金(F+G)	△ 9,973,048
追加信託差損益金	200,478
(配当等相当額)	(745,991)
(売買損益相当額)	(△ 545,513)
分配準備積立金	5,573,978
繰越損益金	△15,747,504

(注) (A) 有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みません。

(注) (B) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) (E) 追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 収益分配金の計算過程は以下の通りです。

計算期間末における費用控除後の配当等収益(0円)、費用控除後の有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定する収益調整金(745,991円)および分配準備積立金(5,573,978円)より分配対象収益は6,319,969円(1万口当たり164円)となりましたが、基準価額水準、市況動向および残存信託期間等を勘案し、当期の分配を見合わせました。

○分配金のお知らせ

当期の収益分配は見送らせていただきました。



運用報告書

第 1 期

決算日 2015年11月20日

(計算期間：2014年11月28日から2015年11月20日まで)

運用方針	<ul style="list-style-type: none">・主として、別に定める投資信託証券への投資を通じて、実質的に日本を含む世界各国の債券、株式、コモディティに投資を行い、投資信託財産の成長を図ることを目標として運用を行います。なお、別に定める投資信託証券においては、効率的な運用を行うために、債券、株式、コモディティへの投資に当たっては、債券先物、株価指数先物、コモディティ上場投資証券およびコモディティ指数連動債を主要取引対象または主要投資対象とします。・別に定める投資信託証券への投資を通じて、債券、株式、コモディティ3資産のリスク寄与度を同程度に配分する戦略的配分を行った上で、期待リターンの向上を目的としてその配分を変更する戦術的配分を行います。・投資信託証券への投資割合は、原則として、高位に保ちます。・別に定める投資信託証券において、その運用方針として対円で為替ヘッジを行うことを掲げている場合は、原則として為替ヘッジを行いません。別に定める投資信託証券において、為替変動の影響を受ける実質組入外貨建資産については、原則として対円で為替ヘッジを行います。・投資対象とする投資信託証券は、委託者の判断により変更することがあります。
主要運用対象	別に定める投資信託証券※ ※別に定める投資信託証券とは、ルクセンブルグ籍外国投資法人インベスコ・バランス・リスク・アロケーション・ファンド クラスC-Accumulation投資信託証券（円ヘッジ）付です。
組入制限	<ul style="list-style-type: none">・投資信託証券への投資割合には、制限を設けません。・株式への直接投資は行いません。・外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。・デリバティブ取引の直接利用は行いません。

インベスコ・アセット・マネジメント

東京都港区六本木六丁目10番1号六本木ヒルズ森タワー14階

<http://www.invesco.co.jp/>

○設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 価 額	期 中 騰 落 率	投 資 信 託 証 券 組 入 比 率	純 資 産 総 額
(設定日)	円	%	%	百万円
2014年11月28日	10,000	—	—	465
1期(2015年11月20日)	9,612	△3.9	98.0	493

(注) 基準価額は1万口当たりです。

(注) 当ファンドは債券、株式、資源資産(コモディティ)を実質的な投資対象とし、それら3資産のリスク寄与度を同程度に配分する戦略的配分を行うため、適切なベンチマークまたは参考指数が存在しません。このためベンチマークまたは参考指数を掲載していません。以下同じです。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額	騰 落 率	投 資 信 託 証 券 組 入 比 率
(設定日)	円	%	%
2014年11月28日	10,000	—	—
12月末	9,952	△0.5	98.0
2015年1月末	10,121	1.2	93.8
2月末	10,267	2.7	97.5
3月末	10,320	3.2	95.5
4月末	10,391	3.9	97.2
5月末	10,202	2.0	95.1
6月末	9,945	△0.6	98.4
7月末	9,895	△1.1	97.8
8月末	9,588	△4.1	99.9
9月末	9,450	△5.5	98.1
10月末	9,803	△2.0	99.4
(期 末)			
2015年11月20日	9,612	△3.9	98.0

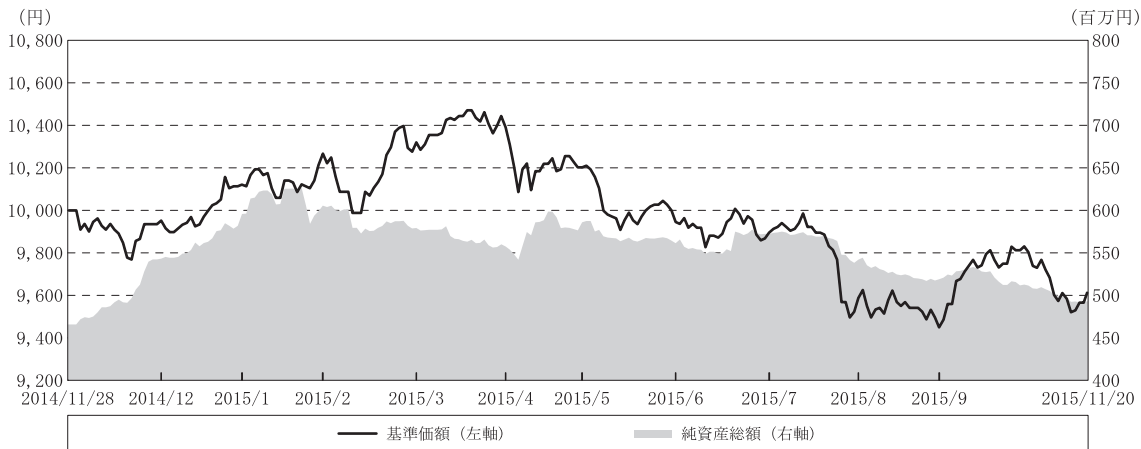
(注) 基準価額は1万口当たりです。

(注) 騰落率は設定日比です。

○運用経過

期中の基準価額等の推移

(2014年11月28日～2015年11月20日)



設定日：10,000円
 期 末：9,612円
 騰落率：△3.9%

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

○基準価額の主な変動要因

[上昇要因]

- ・日本を含む世界各国の債券、株式、資源資産（コモディティ）を実質的な投資対象としているため、ほぼ全ての債券市場で利回りが低下（債券価格が上昇）し、株式市場が上昇したことが基準価額の上昇要因となりました。

[下落要因]

- ・日本を含む世界各国の債券、株式、資源資産（コモディティ）を実質的な投資対象としているため、コモディティ市場が下落したことが、主な基準価額の下落要因となりました。

投資環境

《債券市場》

米国30年国債	3.067% (設定日 2.934%)	英国10年国債	1.987% (同 1.967%)
ドイツ10年国債	0.150% (同 0.553%)	日本10年国債	0.782% (同 0.891%)

※上記は各国債先物の当期末の最終利回りです。

当期の世界の債券市場は、期初から2015年4月中旬にかけて、原油価格下落によるインフレ抑制効果への期待や欧州の金融緩和拡大の動きなどから、欧州圏を中心に先進諸国の金利が低下（債券価格は上昇）しました。しかしその後は、①米国の利上げ開始時期に関する観測、②ギリシャの債務問題をめぐるユーロ諸国の負担増加不安などを背景に世界的な債券売りの流れとなり、金利は上昇（債券価格は下落）しました。7月以降は①ギリシャ問題の先行き不透明感が高まったこと、②中国景気に対する懸念から中国株式市場が急落し、商品市況も大きく下落したことなどを背景に金利は低下しました。その後は米国の利上げ開始時期に関する思惑から利回りは上下しましたが、10月に開催された米連邦公開市場委員会（FOMC）声明文で年内利上げが強く示唆されたことをきっかけに、利回りは上昇に転じました。

《株式市場》

米国 S&P500 種指数先物	+0.8%	英国FTSE100種総合株価指数先物	△5.7%
欧州 Euro Stoxx50 指数先物	+6.6%	日本TOPIX先物	+15.3%

※騰落率は当期末時点の数値（対前期末比）です。

当期の世界の株式市場は、期初より2015年1月半ばにかけて、原油価格の大幅下落などを受けたリスク回避の流れから下落しました。しかし、1月後半に欧州中央銀行（ECB）が市場予想を上回る規模の金融緩和の拡大を発表したことから、上昇に転じました。その後は米国の利上げ開始時期に対する思惑などから下落する場面もあったものの、総じて上昇基調を維持しました。しかし8月下旬の中国株式市場の大幅な下落に端を発し、世界的に株式市場は大きく下落しました。その後期末にかけては、米国で利上げが先送りされたことなどから株価は値を戻しました。

《コモディティ市場》

エネルギー（WT I 原油）	前期比末△43.5%	工業金属（銅）	△31.0%
貴金属（金）	△9.5%	農産物（R I C I）	△18.8%

※騰落率は当期末時点の数値（対前期末比）です。代表的なETCの価格を用いて計算しています。

当期のコモディティ市場は、中国景気の減速を背景とした需要減少懸念などを背景に、原油価格を中心に大幅に下落しました。

当期の原油価格は、景気の先行き不透明感が増したことや原油の減産が見送られたことなどにより、期初より2015年1月にかけて大幅に下落しました。その後は①米国のリグ（油田の掘削装置）の稼働減少と設備投資の減少が確認されたこと、②ギリシャ懸念の後退によりリスク回避姿勢が改善したことなどを背景に反発しました。しかしその後は①中国の景気失速を背景とした需要減少懸念、②米国のリグの稼働減少と米国内在庫の増加が確認されたこと、③国際エネルギー機関（IEA）の石油需要に対する鈍化見通しなどを背景に、5月下旬から8月下旬にかけて大幅に下落しました。9月には石油輸出国機構（OPEC）が減産を示唆したことにより一時的に上昇しましたが、需給悪化懸念は払しょくされず、大幅な下落となりました。

当ファンドのポートフォリオ

主としてルクセンブルグ籍外国投資法人インベスコ・バランス・リスク・アロケーション・ファンド クラスC-Accumulation投資信託証券（円ヘッジ付）に投資を行いました。同外国投資法人では、債券、株式、コモディティ資産に対しては、リスクの低い資産を多く、リスクの高い資産を少なく保有するリスク・パリティを基本とする戦略的資産配分とし、インベスコ独自のモデルを用いて、定量的に経済環境を分析、判断し、ポジションを調整することで、戦術的資産配分を決定しました。なお、効率的な運用を行うため、債券先物、株価指数先物、コモディティ上場投資証券およびコモディティ指数連動債などを用いました。

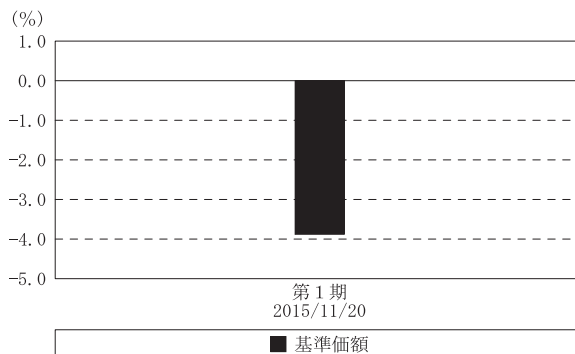
具体的には、まずリスク・パリティを基本として各資産クラスにてロング・ポジションを形成し、独自のモデルによって、以下のような戦術的資産配分を行いました。

- ・債券は、期初はオーバーウェイトとしていましたが、米国での利上げ観測が出始めた頃から組み入れを引き下げ、年内の利上げが示唆された2015年5月はアンダーウェイトとしました。また6月にはニュートラルとしましたが、米国での利上げ時期の予想が後ろ倒しになるにつれ、期末にかけて再度オーバーウェイトとしました。
- ・株式は、当期中の変動率が高くなり、機動的に組入比率を調整しました。全般的にはオーバーウェイトを維持しましたが、2015年1月はニュートラルとし、9月には8月の世界同時株安、原油安、世界経済見通しの後退などを受けてアンダーウェイトとしました。
- ・コモディティは、ほぼ期を通じてアンダーウェイトとしましたが、2015年5月には若干のオーバーウェイトとしました。

当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドは、運用の目標となるベンチマークや参考指数を設けておりません。

右記のグラフは、期中の当ファンドの期別基準価額騰落率です。



○今後の運用方針

主としてルクセンブルグ籍外国投資法人インベスコ・バランス・リスク・アロケーション・ファンド クラスC-Accumulation投資信託証券（円ヘッジ付）に投資を行います。同外国投資法人では、債券、株式、コモディティに対しては、リスクの低い資産を多く、リスクの高い資産を少なく保有するリスク・パリティを基本とする戦略的資産配分とし、インベスコ独自のモデルを用いて、定量的に経済環境を分析、判断し、ポジションを調整することで、戦術的資産配分を決定します。前記の方針に基づき、毎月月初時点での投資判断をもとにリバランスを行いながら、今後も規律あるプロセスに従った運用を行っていきます。なお、効率的な運用を行うため、債券先物、株価指数先物、コモディティ上場投資証券およびコモディティ指数連動債などを用います。

○当ファンドのデータ

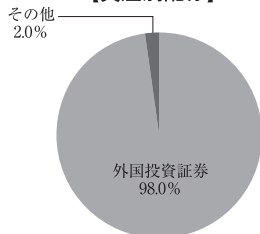
(2015年11月20日現在)

【組入上位ファンド】

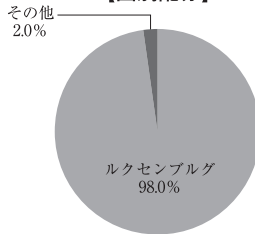
銘柄名	第1期末
インベスコ・バランス・リスク・アロケーション・ファンド クラスC-Accumulation	98.0%
組入銘柄数	1銘柄

(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

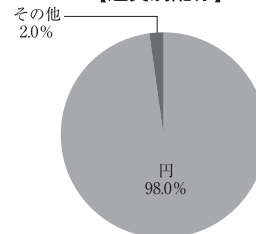
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては、発行体の国籍（所在国）などを表示しております。

(注) その他には現金等を含む場合があります。

○1万口当たりの費用明細

(2014年11月28日～2015年11月20日)

該当事項はございません。

○売買及び取引の状況

(2014年11月28日～2015年11月20日)

投資信託証券

銘	柄	買 付		売 付	
		口 数	金 額	口 数	金 額
国内	インベスコ・バランス・リスク・アロケーション・ファンド クラスC-Accumulation	千口 615	千円 669,495	千口 152	千円 165,000

(注) 金額は受け渡し代金。

(注) 単位未満は切捨てています。

○利害関係人との取引状況等

(2014年11月28日～2015年11月20日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2015年11月20日現在)

国内投資信託証券

銘	柄	当 期 末		
		口 数	評 価 額	比 率
		千口	千円	%
	インベスコ・バランス・リスク・アロケーション・ファンド クラスC-Accumulation	463	483,405	98.0
合 計	口 数 ・ 金 額 銘 柄 数 < 比 率 >	463	483,405	
		1	<98.0%>	

(注) 比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 口数・評価額の単位未満は切捨てています。

○投資信託財産の構成

(2015年11月20日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
投資証券	483,405	97.8
コール・ローン等、その他	10,835	2.2
投資信託財産総額	494,240	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨てています。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2015年11月20日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	494,240,142
コール・ローン等	5,834,640
投資証券(評価額)	483,405,501
未収入金	5,000,000
未収利息	1
(B) 負債	946,500
未払解約金	946,500
(C) 純資産総額(A-B)	493,293,642
元本	513,227,714
次期繰越損益金	△ 19,934,072
(D) 受益権総口数	513,227,714口
1万口当たり基準価額(C/D)	9,612円

<注記事項>

(貸借対照表関係)

1. 設定時元本額 465,812,080円
 期中追加設定元本額 361,086,349円
 期中一部解約元本額 313,670,715円
2. 当期末における当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額
 インベスコ プレミア・プラス・ファンド 513,227,714円
 合計 513,227,714円
3. 元本の欠損
 貸借対照表上の純資産総額が元本総額を下回っており、その差額は19,934,072円です。

○損益の状況 (2014年11月28日～2015年11月20日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	2,159
受取利息	2,159
(B) 有価証券売買損益	△21,090,337
売買益	2,159,808
売買損	△23,250,145
(C) 当期損益金(A+B)	△21,088,178
(D) 追加信託差損益金	2,289,038
(E) 解約差損益金	△ 1,134,932
(F) 計(C+D+E)	△19,934,072
次期繰越損益金(F)	△19,934,072

(注) (B) 有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みません。

(注) (D) 追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) (E) 解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

○約款変更のお知らせ

- ・金融商品取引法および投資信託及び投資法人に関する法律等の改正に係る政令・内閣府令、一般社団法人投資信託協会の諸規則等が施行・実施されたことに伴い、①デリバティブ取引に係るリスク管理の方法、②書面決議手続きーについて関連する条項に変更を行いました。(2014年12月1日)
- ・金融商品取引法および投資信託及び投資法人に関する法律等の改正に係る政令・内閣府令、一般社団法人投資信託協会の諸規則等が施行・実施されたことに伴い、新たに定められた「信用リスク集中回避のための投資制限」の規定に対応するため、関連する条項に変更を行いました。(2015年8月18日)

(参考情報)

ルクセンブルグ籍外国投資法人 インベスコ・バランス・リスク・アロケーション・ファンド

「インベスコ バランス・リスク・アロケーション マザーファンド」が主要投資対象として
いる「インベスコ・バランス・リスク・アロケーション・ファンド」の直近の情報は以下の通
りです。

当ファンドは、「インベスコ バランス・リスク・アロケーション マザーファンド」が投資
対象とするルクセンブルグ籍外国投資法人が発行するクラスC-Accumulation投資信託証券（円ヘ
ッジ付）です。

○ファンドの仕組み

形 態	ルクセンブルグ籍外国投資法人
投 資 対 象	債券、株式、コモディティの3資産に投資します。
運 用 方 針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 債券、株式、コモディティの3資産に実質的に投資することにより、伝統的な金融市場と低中相関で、トータル・リターンを得ることを目標とします。 ・ 3資産への投資に当たっては、3資産のリスク寄与度を同程度に配分する戦略的配分を行った上で、期待リターンの向上を目的としてその配分を変更する戦術的配分を行います。 ・ 原則として対円での為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図ります。
管 理 会 社	インベスコ・マネジメント・エス・エイ
投 資 顧 問 会 社	インベスコ・アドバイザーズ・インク
決 算 日	毎年2月末
分 配 方 針	分配は行いません。

インベスコ・バランス・リスク・アロケーション・ファンドは、現地の法律に基づいて財務諸表が作成され、公認会計士により財務書類の監査を受けております。以下に掲載している情報は、2015年2月28日現在のFINANCIAL STATEMENTSから抜粋しております。

○損益計算書および純資産額変動計算書

(2014年3月1日から2015年2月28日までの期間)
(単位：ユーロ)

収益	
受取利息（債券）	24,027,397
マーケットディスカウントの増価／マーケットプレミアムの償却	(22,631,613)
受取利息	159,722
その他の収益	25,784
	1,581,290
費用	
運用及び投資顧問会社報酬	40,833,433
サービス代行報酬	8,947,222
保管報酬	365,562
ルクセンブルグの税金	1,626,412
事務代行費用	636,416
	52,409,045
当期投資純利益／（損失）	(50,827,755)
受益証券発行／（買戻）による純収益／（支払）金	(88,815,190)
投資有価証券、デリバティブおよび外国通貨の処分に係る 実現純利益／（損失）	294,098,969
為替先物予約に係る未実現評価益／損の純変動額	(77,763,930)
先物契約に係る未実現評価益／損の純変動額	53,049,168
投資有価証券に係る未実現評価益／損の純変動額	34,971,115
期首純資産額	3,321,644,066
期末純資産額	3,486,356,443

○投資有価証券明細表

(2015年2月28日現在)

銘柄	額面	時価 (ユーロ)	純資産に占める割合 (%)
公的な証券取引所に上場を認められているまたは他の規制市場で取引されている譲渡性のある有価証券			
債券			
ドイツ			
Bundesobligation 1.75% EUR 09/10/2015	200,000,000	202,322,200	5.80
Bundesobligation 2% EUR 26/02/2016	150,000,000	153,268,035	4.40
Bundesobligation 2.25% EUR 10/04/2015	200,000,000	200,490,930	5.75
Bundesrepublik Deutschland 3.25% EUR 04/07/2015	200,000,000	202,314,370	5.80
Bundesrepublik Deutschland 3.5% EUR 04/01/2016	150,000,000	154,708,282	4.44
Bundesschatzanweisungen 0% EUR 12/06/2015	200,000,000	200,080,290	5.74
Bundesschatzanweisungen 0% EUR 11/12/2015	200,000,000	200,247,070	5.75
Bundesschatzanweisungen 0.25% EUR 13/03/2015	200,000,000	200,019,470	5.74
Bundesschatzanweisungen 0.25% EUR 11/09/2015	200,000,000	200,478,640	5.75
German Treasury Bill 0% EUR 25/03/2015	150,000,000	150,016,965	4.30
		1,863,946,252	53.47
米国			
CIBC Bank 0% 05/10/2015	194,600,000	165,727,225	4.75
JPM Contag Copper 1x Index 0% USD 20/07/2015	200,000,000	153,256,006	4.40
		318,983,231	9.15
債券合計		2,182,929,483	62.62
証書			
ドイツ			
RICI Enhanced Brent Crude ETC	740,000	58,230,600	1.67
RICI Enhanced WTI Crude Index	1,190,000	77,016,800	2.21
		135,247,400	3.88
アイルランド			
Source Physical Markets Gold P-ETC	1,120,000	118,557,179	3.40
英国			
ETFS Aluminium	4,000,000	11,328,935	0.32
ETFS Copper	2,050,000	49,504,176	1.42
ETFS Physical Silver	6,950,000	98,398,759	2.82
Gold Bullion Securities Ltd	100,000	10,297,695	0.30
		169,529,565	4.86
証書合計		423,334,144	12.14

銘柄	額面	時価 (ユーロ)	純資産に占める割合 (%)
公的な証券取引所に上場を認められているまたは他の規制市場で取引されている譲渡性のある有価証券合計		2,606,263,627	74.76
その他の譲渡性のある有価証券			
2002年12月20日の集団投資事業に関する法律第41条1Hに規定される短期金融商品			
Barclays C/P EUR 21/11/2015	149,000,000	149,000,000	4.27
2002年12月20日の集団投資事業に関する法律第41条1Hに規定される短期金融商品			
		149,000,000	4.27
その他の譲渡性のある有価証券合計		149,000,000	4.27
オープン・エンド型投資信託			
アイルランド			
Invesco Short Term Investments Company (Global Series) plc - Euro Liquidity Institutional Class	47,500,000	47,500,000	1.36
オープン・エンド型投資信託合計		47,500,000	1.36
投資有価証券合計		2,802,763,627	80.39

(参考情報)

インベスコ マネープール・ファンド（適格機関投資家私募投信）

○ファンドの仕組み

商品分類	追加型投信／国内／債券
信託期間	無期限
運用方針	主として、円貨建ての短期公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を図ることを目標として運用を行います。
主要運用対象	主として、円貨建ての短期公社債および短期金融商品に投資します。
組入制限	<ul style="list-style-type: none"> ・株式への投資は、投資信託財産の純資産総額の10%以下とします。 ・外貨建て資産への投資は行いません。
分配方針	原則として年1回の毎決算時（11月20日、該当日が休業日の場合は翌営業日）に委託会社が、基準価額水準、市況動向等を勘案して分配を行います。ただし、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。

○組入資産の明細

(2015年11月20日現在)

2015年11月20日現在、有価証券等の組入れはございません。

○損益の状況

(2014年12月1日～2015年11月20日)

項目	当期
	円
(A) 配当等収益	362
受取利息	362
(B) 信託報酬等	△111
(C) 当期損益金(A+B)	251
(配当等相当額)	(9)
(売買損益相当額)	(△ 9)
(D) 計(C)	251
(E) 収益分配金	0
次期繰越損益金(D+E)	251
(配当等相当額)	(9)
(売買損益相当額)	(△ 9)
分配準備積立金	251

(注) (B) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) 収益分配金の計算過程は以下の通りです。
 計算期間末における費用控除後の配当等収益(251円)、費用控除後の有価証券売買等損益(0円)、および信託約款に規定する収益調整金(9円)より分配対象収益は260円(1万口当たり0.47円)となりましたが、基準価額水準、市況動向、および残存信託期間等を勘案し、当期の分配を見合わせました。